

公益財団法人 川崎市文化財団 情報誌 ● かわさき・アートニュース

KAWASAKI ART NEWS

2017.4

Vol.250



THE KAWASAKI FOUNDATION

南武線誕生物語

— 夢みる男たち —

南武線誕生90周年
2017年5月上演

多摩川風景写真：
小池 汪



CONTENTS [目次]

05 歴史・文化

東海道かわさき宿交流館

06 音楽

ミューザ川崎シンフォニーホール

10 美術

市内ギャラリー情報

13 演劇

アルテリオ小劇場

14 映画

アルテリオ映像館



九軌十起の実業家
浅野総一郎



アサガミ事件の
秋元喜四郎

第6回 川崎郷土・市民劇

「南武線誕生物語 —夢みる男たち—」

インタビュー：板倉 哲さん(演出家)

川崎の歴史や人物をとり上げ、市民の手で劇化上演することにより、市民文化の向上と豊かなまちづくりを推進しようと2006年に始まった、川崎郷土・市民劇。公募で選ばれた一般市民と、川崎市を拠点とする劇団に所属するプロの俳優が手を組み、毎回3,500人以上の観客を動員し、好評を得ています。

南武線が誕生して90年を迎えた本年、誰が開通を思いつき、どのようにして実現させたのか、あまり知られていない歴史とその背景を描いた創作劇を5月に上演します。今回、演出を務める板倉哲さんにお話を伺いました。

—— 今回の市民劇には、どんな出演者がいらっしゃるのでしょうか？

出演者は総勢40名いますが、一人一人、この作品に参加する動機と理由が非常に明確だと感じました。

平日夜に週2回と、土曜日昼間からの稽古に必ずしも出られる人ばかりではありません。しかし、それぞれが仕事をやりくりし、中には芝居作りの過程に興味があると演出助手を引き受けてくれた働き盛りの若者もいます。

職場を辞め、稽古に通えるようなシフトを組める新しい働き口を見つけたという人や、今回これを機に演劇で食べていこうと、きっぱり仕事を辞めることにしたという人もいました。それほどの覚悟を持ってでもこの稽古場に来たいんだという意志に鳥肌が立つ想いでしたね。良いオーラとエネルギーに稽古場が満たされています。

生きた交流、仲間づくり

—— 稽古の前に、出演者全員で行うゲームを取り入れていますね。これはどういう目的があるのでしょうか？

出演者はプロのキャリアを積んだ方から、芝居は初めてという人までいらっしゃるの、座組みというか仲間づくりを丁寧にやりたいと思って稽古しています。

「こんな小さい役なら出る気ないわ」っていう気持ちは、正直なところあって当然だと思います。ただ、この輪に入ってみると一緒にやりたいという人を少しでも増やしていきたい。それで毎回稽古の前にゲームをやって、仲間意識を高めると同時に、芝居のなかに生きた交流を生む効果を狙っています。

あまり経験のない人は台本を読むとき、「自分の番が回ってきたので、台詞を声にして感情を吐露しました。はい次はあなたの番」というふうに思ってしまうがちですが、実は相手の台詞の中に自分が喋りたくなる動機が生まれてくることもあるし、相手が台詞を言い終わった後に自分が一言発するの、「ああでもない、こうでもない」と2、3秒ぐるぐる考えることもありますよね。それがリアルな人間関係で、いわゆる人と人との交流だと思います。この交流こそ演技の原点であり、重要だと考えているのでゲームを重視しているのです。

先日、出演者たちの決起会があり、

全員に一言ずつしゃべってもらったのですが、仲間の決意を聞いている皆さんの顔がとても生き生きとしていて、稽古場の和、仲間づくりといった僕の大事にしていたことが、ひとつ大きく前進をしたなという感じがしました。出演者にとって数時間の稽古が非日常の良い居場所になればと思っています。

作るプロセスを喜びに

今回のような郷土市民劇は、作るプロセス自体が喜びになり、演じる作品自体も良いものになり、切符を買って観に来てくださったお客さまにも喜んでいただき、実行委員会の皆さまもこの市民劇の立ち上げに骨を折って良かったという、三方良しの関係ができるいいなと思っているので、稽古も実のある楽しいものにしたいと欲張っています。

実演芸術の中でも、演劇が一番手間がかかります。わざわざ週三回集まって他者と交流するという面倒な過程を経て稽古を進めるという大変な苦労があり、更に照明や衣装、音響など色んな人たちの手が加わる、とても贅沢な仕組みだと思います。しかし、現代の合理的なものが良しとされる生産性重視の世の中で、アナログ的な一番手間のかかることからこそ、得られる喜びもあるんじゃないかなと思います。

体験してもらって、出演者やスタッフの皆さんから、このプロセスが面白かったと言ってもらえるように、僕も工夫と努力を怠ってはならないと思っています。

血の通ったライブ感

—— 稽古場の様子、ご苦労されていることをお聞かせください。

役作りを頑張っている人のほうが、つまりいたり苦しんだりすることがよくあります。ある女優さんが「長い台詞も含めて、台本を全部覚えまして」と、初回の稽古で仰ったとき、僕は「すみませんが一旦全部忘れてください」とお話しました。

相手から触発されて自分が言わざるをえない必然の動機は、準備しすぎると発見しづらくなってしまいます。相手から刺激を受けて呼吸が変わり、言おうと思っていた予定が大きく変更されるという瞬間は、実は観客にとって楽しみなんです。それが、ライブである演劇の面白いところです。「この人は次に何を言うんだろう」と注目する時、想像力がものすごく働きますよね。

僕はよく「全部しっかり身に付けた上で、100%忘れて稽古場に来てください」と言います。そうすると、生きた言葉をそ



の場で生み出す臨場感が観客に伝わり、目が離せなくなるという良い循環を生みます。台本が予定調和で進み、何が起るか全部分かり切った、心の動かない役者同士のやりとりだと観客も退屈ですよ。

また、僕は稽古中に繰り返し「目的はなんですか」と問います。「あなたはその言葉を言って、誰にどういう影響を与えようとし、その目的は達せられましたか」と。言い足りなければ次の言葉を準備するだろうし、目的が達せられそうだと思うたらそこで呼吸も変わります。言い終わったあとも台詞は続いているんですよ。それを皆さんに少しずつ理解していただくことが今始まったところです。

現代に通じるテーマ

——「南武線誕生物語」の見どころについてお聞かせください。

南武線誕生の時代は、貧困の蔓延や、大きな災害が起きてからの復興など、いくつかのキーワードが現代にすごくつながっていると思います。困難の中で他者と夢を共有するという美しさや、これが実現したらいいなという希望を持つことが出来るような芝居になったらと思います。ビジュアル的にも、多摩川の氾濫と戦う住民たちを絵にしたいと思っていますし、料亭で芸さんが舞い踊る場面では、元ミス横浜の女優さんがプロとして日舞の芸を披露して下さるので、絢爛たる絵にしたいと思っています。

登場人物の多くが南武線の誕生という希望に収斂されていく姿をご覧になり、お客さまの心が温かくなれば嬉しいですね。

出演者の想いを舞台に

——この市民劇にける意気込みをお聞かせください。

出演者の意気込みは崇高ですが、だからといって順風満帆にはいきません。体調を崩して稽古を休まざるを得ない人、家族の介護があるが、だからこそ非日常の稽古場に来たいという人。そういうピュアな想いが舞台にちゃんと乗るようにしたいと思っています。もちろん、作品の美しさや作者の意気込みやビジョンを形象化したいですけれども、出演者たちの試行錯誤や今生きているエネルギーが舞台に反映されるように力を入れたいなと思います。

出演者のエネルギーやオーラは、形を変えてきつと観客席に届きます。役柄の大きい人の言葉だけではなく、一言だけ場面だけの出演者からも何かキラッと輝くものが生まれるだろうと信じていますし、そのための仕事をしたいなと思いますね。

町の未来を市民と思い描く

——観客の方へメッセージをお願いします。

舞台の上で起きる魅力は、あらゆるところに潜んでいるので、物語を頭で理解しなければと頑張らず、リラックスして見ていただければと思います。

人々が生きるエネルギーや、他人を信じて夢を持つことで困難を克服する姿は、出演者の姿そのものでもあると思います。その姿に触れて「明日から自分も頑張ってみるか」と大きく伸びをしていただけるような機会になればうれしいですね。

京浜工業地帯は、日本が経済大国になっていくプロセスの中で大きな要石となり、この川崎の町を支えました。過去にこういう歴史があって、じゃあこの町が90年後にはどうなるのだろうという話を、皆さんと一緒に語れたら面白いですよ。技術の革新が速いこの時代に、そんな先のことは想像できないと思われるかもしれませんが、人々が幸せに生きるという、一つのぶれない大命題があれば、きっと方向を見通すことは可能だと思うし、逆にそれがない、行き当たりばったりの経済開発や政策は行き詰まりも早いかもしれないと思います。100年後の人々が幸せになるようにと思い描くのは貴重なことです。僕も心がけたいですね。



すっかり打ち解けてきた出演者たち

ストーリー

Story

川崎の大動脈ともいわれる南武線は昭和2年(1927年)、「南武鉄道」として開通した。

誰が思いつき、誰がどのようにして実現させたのか。

あまり知られていない歴史とその背景をドラマチックに描いた創作劇。壮大な夢を見続けた二人の男の物語。

一人は御幸村村会議員をへて橘樹郡議員として活躍した秋元喜四郎。多摩川に堤を築くために立ち上がった村民600人の「アミガサ事件」のリーダーでもあった。そしてもう一人は、ガス、セメント、運河、造船、そして京浜運河と広大な京浜間埋め立て事業を完成させ、日本の産業の近代化に貢献した浅野財閥の浅野総一郎であった。まったく背景の違う二人の男の夢と葛藤。

概要

Information

川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2017 参加事業

第6回 川崎郷土・市民劇

南武線誕生物語

— 夢みる男たち —

作:小川信夫 演出:板倉 哲(青年劇場)
出演者:公募の市民、市内の劇団、演劇人等

●川崎市多摩市民館

(JR南武線「登戸駅」徒歩10分、
小田急線「向ヶ丘遊園駅」北口徒歩5分)

5月13日(土)13:30、14日(日)13:30

●エポックなかはら

(JR南武線「武蔵中原駅」徒歩1分)

5月19日(金)18:30、20日(土)13:30、
21日(日)13:30

チケット/指定席:3,600円(前売りのみ)

自由席:2,900円

学生・障がい者:1,000円

※当日券各300円増



お問い合わせ・お申込み

川崎郷土・市民劇上演実行委員会

TEL&FAX 044-222-8878

k.shimingeki@gmail.com

プロフィール

Profile

板倉 哲 [俳優・演出家・青年劇場所属]

立命館大学哲学科を卒業後、青年劇場付属養成所を経て、1982年青年劇場入団。

演出家、俳優として活躍のほか、ワークショップ等も各地で行っている。

川崎郷土・市民劇
稽古場
レポート

2016年の8月から9月にかけて出演者を募集し、公募に応じた役者たち40人が揃いました。年代は17歳から83歳までと幅広く、舞台経験もベテランのプロから全くの初心者まで様々です。

11月から年明けにかけて6回のワークショップと学習会を行い、1月中旬にキャストが決定しました。青年劇場のベテラン、板倉哲さんの演出のもと、1月末から本格的な読み稽古が始まりました。週三回、夜遅くまで白熱した稽古が進んでいます。

稽古前恒例のゲーム

毎回、稽古が始まる前に出演者全員でゲームをして演技の感覚を磨きます。人に伝わる表現、言葉の伝え方・受け取り方などをゲームを通して学びます。



隣の人がとったポーズを真似した後、自分の好きなポーズを付け加えていくゲーム。それぞれがとるポーズに笑いが絶えない。

台本の読み合わせ稽古

台本を何度も読み込み、台詞の言い方やその背景にある心理を、演出家の指導のもと、細かく確認していきます。

そのシーンに登場する出演者が欠席の時は、別の出演者が代読をすることも。「代読してくれる人が一生懸命素読みをすることが、非常に良いんですよ。台本を見て感じたまま読むことで、登場人物の行動の要点を再確認できるんです」。(演出：板倉さん)

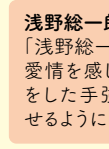


緊張感に満ちた雰囲気の中、台本の世界がどんどん深まっていく

出演者インタビュー



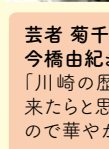
秋元喜四郎役/井上倫宏さん(演劇集団円)
「市民劇には初めて参加するので若干の不安はありますが、共演する皆さんと一緒に、いい舞台を創りたい。それが出来るような気がします」



浅野総一郎役/高坂諭さん(アート企画陽だまり)
「浅野総一郎の伝記を読んで、働き者の夫婦の愛情を感じました。近代化へ向けて大きな働きをした手強い人物ですが、人物像を彷彿とさせるようにしたいです」



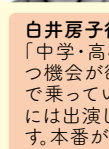
秋元喜四郎の妻ふじ役/高村絵里さん
「秋元喜四郎を支える一番の理解者である妻は、ただの内助の功ではなく、共に大きな夢を実現していく新しいタイプの女性として描かれています。現代の女性たちが見て勇気づけられるような舞台にしたいです」



芸者 菊千代役/
今橋由紀さん(ワンダー・プロダクション)
「川崎の歴史を語り継いでいくお手伝いが出来たらと思います。影を抱える役ですが、芸者なので華やかに演じたいです」



女衛・刑事役/
桂米多朗さん(落語家真打、かわさき産業親善大使)
「10年ぶりの芝居出演です。いつも1人で演じているので、皆のセリフを聞きながらワクワクドキドキしています。本番を楽しみにしています」



白井房子役/袴田羽音さん(最年少17歳)
「中学・高校で演劇に関わってきて、舞台に立つ機会が欲しくて応募しました。南武線は通学で乗っていたので、思い入れがあります。演劇には出演した人にしか分からない魅力があります。本番が楽しみです」



第1弾 シンポジウム

「アミガサ事件と秋元喜四郎」

地域史研究家の長島保氏、アミガサ事件100年の会の関崎益男氏をお招きして、「南武線誕生物語」に登場する秋元喜四郎と深く関わりのあるアミガサ事件についてお話いただきました。

第2弾 シンポジウム

「浅野総一郎と川崎」

「九転十起 事業の鬼・浅野総一郎」の著者で、ジャーナリストの出町譲氏をお招きし、富山から夜逃げ同然に上京した浅野総一郎が京浜工業地帯を築くまでに至った話をさせていただきました。



制作発表・記者会見

2月16日に川崎市役所の記者クラブにて、記者会見を行いました。

作者である小川信夫さんが、「大正時代、当時の時代背景を知ってもらいたい。その中での浅野と秋元、そして庶民の生き方を見て欲しい。今日の問題とつながってくると思います」と作品に込めたメッセージを語りました。

前列左から、小川久光劇実行委員長(川崎駅駅長)、黒田俊夫実行委員長、小川信夫さん(作者)、板倉哲さん(演出)
後列左から、高坂諭さん(浅野総一郎役)、高村絵里さん(秋元の妻、ふじ役)、井上倫宏さん(秋元喜四郎役)



(2016年12月15日 中原市民館)



(2017年2月11日 川崎市役所第4庁舎)

facebookページで
情報更新中!





東海道かわさき宿交流館

TOKAIDO KAWASAKI SHUKU KORYUKAN



江戸時代の粋に遊ぶ その25

「曲師(浪曲)」

日時:4月15日(土)14時から(13時半開場)

料金:1,500円 定員:80名(自由席)

会場:東海道かわさき宿交流館 4階集会室 出演:沢村豊子 他2名

沢村 豊子

福岡県大牟田市出身。曲師(浪曲の三味線弾き)。11歳で浪曲師・佃雪舟に三味線の筋のよさを見込まれ、浪曲界入り。山本艶子に師事し、佃雪舟の三味線として全国巡業。17歳の時に当時売り出し中の浪曲師・国友忠が主催する「浪曲教室」に参加。以来、国友忠の相三味線となり、ラジオ東京(TBS)や文化放送の浪曲ドラマの曲師など担当。テレビ、レコードでは三波春夫、村田英雄、二葉百合子などの三味線も弾いた。近年においては、ベテランから若手まで隔てなく曲師を務め多くの舞台や放送をこなし、現在は玉川奈々福の相三味線をつとめる。浪曲三味線の技術などが細かく収録された教則DVD『浪曲三味線 沢村豊子の世界』が発売中。



企画展「横浜絵」展

幕末から明治初年にかけて、横浜を画題として描かれた作品をお楽しみください。

日時:4月5日(水)~4月30日(日) 9時から17時まで

料金:無料

会場:東海道かわさき宿交流館 3階企画展示室

展示ー宿場時代の川崎(2階)

江戸時代の川崎宿の歴史や当時の情報があります。
旅人の衣装を着て記念撮影もできます。



展示ー江戸から現代へ(3階)

明治以降の川崎市の歴史や、ゆかりの人物などの展示があります。



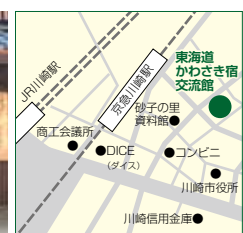
貸館案内 4階の集会室は、ふれあいネット(川崎市公共施設利用予約システム)にて利用予約が必要です。

〒210-0001 川崎市川崎区本町1丁目8番地4

TEL.044-280-7321 FAX.044-280-7314

<http://www.kawasakishuku.jp/>

【アクセス】京急川崎駅より徒歩4分、
JR川崎駅東口より徒歩9分



ミューザ川崎シンフォニーホールのおすすめ公演

お申込み・お問合せ◎ミューザ川崎シンフォニーホール ☎044 - 520 - 0200(10:00~18:00)



サクスのカッコよさを楽しむコンサート

出演

ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット(上野耕平、宮越悠貴、都築 惇、田中奏一朗)

MUZAランチタイムコンサート 新進気鋭のサクソフォン四重奏!

4月12日(水) 12:10開演(11:30開場)

全席自由 / 500円

J.S. バッハ: G線上のアリア
フランセ: サクソフォン小四重奏曲
ガーシュウィン: 3つの前奏曲 ほか

ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット

MUZAナイトコンサート60 若さあふれる本気のサクソフォン!

4月12日(水) 19:00開演(18:30開場)

SS指定席(限定100席)2,000円 自由席1,000円

カプースチン(宮越悠貴編):
「8つの演奏会用エチュード」より前奏曲
カプースチン(宮越悠貴編): 「24の前奏曲」より
ラヴェル(旭井翔一編): 「クーブランの墓」より ほか

ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団

名曲全集第126回

早世した天才作曲家たちの名作

4月16日(日) 14:00開演(13:30開場)

S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,000円

享年35のモーツァルト、享年31のシューベルト、そして指揮者・尾高忠明の父である尚忠は享年39。早世の作曲家たちが遺した名作をお楽しみいただきます。

出演

指揮: 尾高忠明
フルート: 高木綾子
管弦楽: 東京交響楽団

プログラム

モーツァルト: 歌劇「後宮からの逃走」序曲
尾高尚忠: フルード小協奏曲
シューベルト: 交響曲第8番「グレイト」



尾高忠明
©Martin Richardson



高木綾子
©FUMI



飯森範親

東京交響楽団

東京交響楽団 モーツァルト・マチネ第29回 モーツァルト×疑惑

4月30日(日) 11:00開演(10:30開場)

全席指定3,500円 学生券(小学生~25歳以下)1,000円

モーツァルトの真作・偽作を織り交ぜたプログラム。どれが真作でどれが偽作か……、その音楽にどんな違いがあるのか、真偽の聴き分けに挑戦してみませんか。

出演

指揮: 飯森範親
管弦楽: 東京交響楽団

オール・モーツァルト?・プログラム

♪ 交響曲 第43番 へ長調 K.76/42a
♪ バレエ音楽《レ・プティ・リアン》K.Anh.10(299b)
♪ 交響曲 第6番 へ長調 K.43

もうすぐゴールデンウィーク ミューザを遊び尽くそう!

こどもフェスタ& こどもの日オープンハウス2017(5/3~5/5)

連日、クラシック中心のコンサートが行われているミューザ川崎シンフォニーホール。

でも、この3日間のミューザは子どもたちとファミリーのものです。

音楽大好きファミリーのために楽しいメニューをいくつも用意しました。

ミューザを音楽の遊び場にしてたくさんの思い出を作ってください。



こども フェスタ

2017年5月3日(水・祝)・4日(木・祝)

KODOMO FESTA

① 楽器体験 要事前申込

オーケストラの楽器を演奏してみませんか?

開催日 5月3日(水・祝)と4日(木・祝)

開催時間 各日2回開催・入れ替え制

①11:00~12:30 ②13:30~15:00

対象年齢 4歳~小学6年生(4月時点)

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール
4階 音楽工房

定員 各回90名

参加費 無料(webにて事前にお申し込みください)

② 音のワークショップ

要事前申込

友達と一緒に音楽の面白さを探そう!

開催日 5月4日(木・祝)

開催時間 10:00~16:00

講師 マイケル・スペンサー

対象年齢 小学4年生~6年生(4月時点)

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール
4階 市民交流室

定員 30名

参加費 500円(webにて事前にお申し込みください)



③ ファシリテーター

養成講座 要事前申込

人と音楽を結ぶファシリテーターのノウハウを学びませんか?
受講者には翌日の「音のワークショップ」の
ファシリテーターとして活躍していただきます。

開催日 5月3日(水・祝)

開催時間 10:00~16:00

講師 マイケル・スペンサー

対象年齢 高校生以上 定員 30名

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール
4階 市民交流室

参加費 2,000円(詳細はwebをご覧ください)

しめ切り 4月20日(木)

こどもフェスタお申込み方法

申込み受付期日

4/8(土)まで

※ミューザのwebページ(下記URL)にてお申し込みください。

<http://kawasaki-sym-hall.jp/wakuwakumuza/>

※申込み多数の場合は抽選となります。当選者には4月22日(土)までにはかきでお知らせいたします。

こどもの日 オープンハウス 2017

2017年5月5日(金・祝)

KODOMONOH OPEN HOUSE

① ミニコンサート

オープニングにふさわしい、
心うきうきする演奏を
お楽しみください。

公演時間

11:00~11:45

出演

パーカッション
アンサンブル
Tuk-Pak
(ツクパク)

② パイプオルガン&照明ショー

日本最大級のパイプオルガンの響きを感じてみましょう!
音楽に合わせて場内の明るさや色が変わる照明ショーは必見!

開催時間 ①12:00~12:30 ②15:00~15:30

出演 近藤 岳 (ミューザ川崎シンフォニーホール・
ホールオルガニスト)

③ ホールを探検しよう(フリータイム)

ホールの裏側(バックステージ)はどんな感じ?
自由に見学してみましょう!

開催時間 ①12:30~13:30 ②14:15~15:00



そのほかにも、ストリートオルガン体験、指揮者体験コーナー、みんなも演奏家!(受付終了)、
音楽なんでも相談コーナーなど、お楽しみは盛りだくさんです。

2017年
4月

ミューザ川崎シンフォニーホール
コンサートカレンダー
CONCERT CALENDAR

「4月の催し」

*チケット料金、残席情報等は各公演の
お問い合わせ先までお尋ねください。

1 土
13:30

ミューザ川崎ホリデーアフタヌーンコンサート2017前期

「黄金のデュオ」矢部達哉&横山幸雄 デュオ・リサイタル

ヴァイオリン:矢部達哉 ピアノ:横山幸雄

ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第9番「クロイツェル」/ ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第23番「熱情」/ ショパン:ワルツ第1番「華麗なる大円舞曲」/ フランク:ヴァイオリン・ソナタ 他

お問合せ:神奈川芸術協会 045-453-5080

2 日
14:00

フロイデ・コア・ヨコハマ第12回 演奏会

お問合せ:フロイデ・コア・ヨコハマ事務局 045-942-9186

指揮:横島勝人 管弦楽:マウントあさま管弦楽団 合唱:フロイデ・コア・ヨコハマ ソプラノ:相原里美 バリトン:谷 友博

ヨハネス・ブラームス:ドイツ・レクイエム

主催公演
8 土
15:00

ホールアドバイザー 秋山和慶 & 佐山雅弘企画 オーケストラで楽しむ映画音楽Ⅷ

14:20~ プレトーク

指揮:秋山和慶 ピアノ:佐山雅弘 ギター:鈴木大介 バンドネオン:北村聡 パレエ:谷桃子パレエ団 安村圭太 他 ナビゲーター:中井美穂 管弦楽:東京交響楽団
『シェラブールの雨傘』/ 『禁じられた遊び』/ 『第三の男』/ ラヴェル:ボレロ / 『奥さまは魔女』/ 『刑事コロンボ』/ パーンスタイン:『ウェスト・サイド物語』 他

9 日
13:30

森村学園中高等部管弦楽部 第12回 定期演奏会

お問合せ:森村学園中高等部 045-984-2505

指揮:深井祥二

チャイコフスキー:歌劇「エフゲニー・オネーギン」より「ボロネーズ」/ E.パーンスタイン「荒野の7人」のテーマ / A.メンケン:「リトルマーメイド」組曲 他

主催公演
12 水
12:10

MUZAランチタイムコンサート4月

新進気鋭のサクソフォン四重奏!

サクソフォン四重奏:ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット(上野耕平、宮越悠貴、都築惇、田中奏一朗)

ブラネル:バーレスク / サンジュレー:「サクソフォン四重奏曲」より 第4楽章 / J.S.バッハ:G線上のアリア / フランセ:サクソフォン小四重奏曲 / ガーシュイン:3つの前奏曲

主催公演
12 水
19:00

MUZAナイトコンサート60

若さあふれる本気のサクソフォン!

サクソフォン四重奏:ザ・レヴ・サクソフォン・クワルテット(上野耕平、宮越悠貴、都築惇、田中奏一朗)

カプーステン(宮越悠貴編):「8つの演奏会用エチュード」より プレリュード / リヴィエ:グラヴェとプレスト / エンゲブレツォン:ベア/ラヴェル(旭井翔一編):「クーブランの墓」より 他

15 土
14:00

合唱団「アニモ KAWASAKI」第17回 演奏会

お問合せ:合唱団「アニモKAWASAKI」(前島) 044-822-2676

(高野) 044-976-0137

指揮:堀俊輔 管弦楽:東京交響楽団 ソプラノ:石上朋子 メゾ・ソプラノ:永井和子 テノール:福井敬 バス:ジョン ハオ

ヴェルディ:レクイエム

主催公演
16 日
14:00

ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団

名曲全集 第126回 早世した天才作曲家たちの名作

指揮:尾高忠明 フルート:高木綾子

モーツァルト:歌劇「後宮からの逃走」序曲 / 尾高尚忠:フルート小協奏曲 / シューベルト:交響曲第8番 八長調 D.944「ザ・グレート」

22 土
18:00

東京交響楽団 第649回 定期演奏会

お問合せ:TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511

指揮:沼尻竜典 チェロ:堤 剛 合唱:東響コーラス(合唱指揮:大谷研二)

グバイドゥーリナ:アッシジの聖フランチェスコによる「太陽の讃歌」〜チェロ、室内合唱団と打楽器のための(日本初演) / ホルスト:組曲「惑星」作品32

23 日
13:30

みなとみらい21交響楽団 第12回 定期演奏会

お問合せ:事務局 070-6572-5690(岸川)

指揮:児玉章裕

ラヴェル:道化師の朝の歌 / マラー:交響曲第7番 小短調「夜の歌」

23 日
19:30

GAME SYMPHONY JAPAN EX2 ~ITOKEN meets STRINGS~

お問合せ:アイムビレッジ

044-567-4869

指揮:志村健一 管弦楽:東京室内管弦楽団 ピアノ:伊藤賢治

曲目未定

27 木
15:00

明電舎創業120周年記念 N響 午後のクラシック

お問合せ:N響ガイド 03-5793-8161

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:ダニエル・ホープ 管弦楽:NHK交響楽団

レーション:田園組曲 作品19 / プルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番 / ベートーヴェン:交響曲第7番

29 土祝
11:00

キッズプログラム ~0歳からのオーケストラ~ ズーラシアンブラス meets 東京交響楽団

金管五重奏:ズーラシアンブラス 指揮:水戸博之 指揮:オカビ 司会:いわさきみずほ

お問合せ:TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511

リヒルト・シュトラウス:「ツァラトゥストラはかく語りき」より冒頭 / グリンカ:歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲 / ヴォーン・ウィリアムズ:グリーン・スリーブスによる幻想曲 他

29 土祝
14:30

キッズプログラム ~0歳からのオーケストラ~ ズーラシアンブラス meets 東京交響楽団

金管五重奏:ズーラシアンブラス 指揮:水戸博之 指揮:オカビ 司会:いわさきみずほ

お問合せ:TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511

リヒルト・シュトラウス:「ツァラトゥストラはかく語りき」より冒頭 / グリンカ:歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲 / ヴォーン・ウィリアムズ:グリーン・スリーブスによる幻想曲 他

主催公演
30 日
11:00

モーツァルト・マチネ 第29回 ~モーツァルト×疑惑~

指揮:飯森範親 管弦楽:東京交響楽団

≪オール・モーツァルト?・プログラム≫ 交響曲 第43番 へ長調 K.76/42a / パレエ音楽≪レ・プティ・リアン≫ K.Anh.10(299b) / 交響曲 第6番 へ長調 K.43

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL
08 KAWASAKI ART NEWS

お問い合わせ:ミューザ川崎シンフォニーホールチケットセンター

Tel. 044-520-0200 (10:00-18:00)

ミューザ川崎シンフォニーホール

川崎市幸区大宮町1310 JR川崎駅西口直結



第48回 しんゆり寄席



今年初めの新春寄席。林家たま平さんによる『出来心』で始まり、続いて桂米多朗師匠による『幫間腹(たいこばら)』。若旦那が馴染みの幫間のお腹に鍼を打つ様子がおかしく、会場が笑いに包まれます。仲入り後の抽選会を経て、林家二楽師匠による『紙切り』。正月にちなんで「羽つき」を切ったのち、客席のリクエストに応じてくれました。元気なお子さんからの「風揚げ」という声から、「日本の四季」、「桂歌丸師匠」など、多様な題材を瞬く間に仕上げる芸はまるで魔法のよう。切っている最中も、楽しい話題で観客を飽きさせません。トリは初音家左橋師匠による、廓嚙の大ネタ『明鳥』。堅物な若旦那が吉原に連れ出されるまでの人間模様を鮮やかに描き出した素晴らしい話芸を披露して下さいました。

しんゆり寄席は、毎月第4土曜日開催。新百合ヶ丘で沢山の笑いをお届けします。
(1月28日 アルテリオ小劇場)

kirara@アートしんゆり



新百合ヶ丘駅南口のペデストリアンデッキを飾るイルミネーションの10周年を記念するイベントとして、アルテリッカしんゆり2017のオープニング公演、オペラ「セビリアの理髪師」に出演する、オペラ歌手の押川浩士さんと丹呉由利子さん、ピアニストの星和代さんによるコンサートが新百合ヶ丘エルミロードで行われました。

ピアノの伴奏が始まり、なんと歌いながらエスカレーターで降りてきた押川さん！1Fの吹き抜けスペースに朗々と響き渡る歌声に、大勢のお客様が足を止めて見入っていました。続いて登場した丹呉さん。美しいドレス姿で、「セビリアの理髪師」から有名なアリアを披露。最後はお二人による二重唱で締めくくられ、素晴らしい歌声に割れんばかりの拍手が送られました。

藤原歌劇団オペラ「セビリアの理髪師」は、4/29(土)・30(日)に新百合ヶ丘のテアトロジョーリオショウワで上演されます。どうぞお楽しみに！

(1月28日 新百合ヶ丘エルミロード)

眞田強が撮えた
多摩川の野鳥たち

川崎市誌研究会、川崎市図書館、川崎市文化財団が合同で毎年開催している川崎をテーマとした写真展。今回は、多摩川で生きる野鳥たちの写真が展示されました。

多摩川は、関東地方の河川のなかで荒川に次いで多様な野鳥相を見ることができます。多摩川エコミュージアム会員の眞田強さんが12年にわたって撮影した、カワセミをはじめとする野鳥の姿44種類・120点の写真が会場を飾りました。

会期中に「野鳥サロン」と題して、眞田さんがスライドを用いて「多摩川に生息する野鳥やカワセミの生態」についての講義を行い、野鳥たちが暮らす多摩川の自然環境を大切にしたいと語りました。

【お客様の声より】

- 地元こんなにたくさんの野鳥がいるなんて感激です。野鳥の生態を見ることができました。(70代)
- 知らないところで、知らない鳥がなにをやっているのかわかりました。(9歳以下)

(1月31日～2月5日 アートガーデンかわさき)

江戸時代の粋に遊ぶ その24
「雅楽」

江戸時代の粋に遊ぶシリーズ、今回は「雅楽」でした。雅楽は1000年以上前から伝わる日本の古典音楽であり、世界最古のオーケストラです。

今回は、「吹き物」と呼ばれる笙・箏・龍笛と、「弾き物」と呼ばれる箏を持ってきて下さいました。また実際に雅楽で舞う時の「蘭陵王」という装束を見せて頂きました。雅楽の歴史や、楽器の説明、演奏(「東遊(あずまあそび)」や「合歓塩(がっかえん)」など計5曲)をして頂き、とても魅力的でした。

最後に、笙・箏・龍笛を吹いてみる体験コーナー。身近ではない楽器なので会場は興味津々。いざやってみると……。な



かなか難しいようで。楽しい一日だったとみなさん大喜びでした。

次回は4月15日で、内容は「曲師」。浪曲の時に必要な三味線奏者のことです。演者は沢村豊子さんにお越し頂きます。お楽しみに。

(2月18日 東海道かわさき宿交流館)

オペラ・スクオーラⅢ



「オペラを知り、オペラを好きになり、そしてオペラが楽しくなる」をコンセプトにした本講座。全5回シリーズで、オペラ団体の監督、オペラ演出家、指揮者等の講師陣を招いて、オペラの世界を学んでいただきます。

第1回目の講師は、日本オペラ協会の総監督補で、オペラ歌手の郡愛子さん。41年間の歌手生活をお話いただきましたが、次々に飛び出す楽しいエピソードで会場が笑いの渦に包まれました。お話の途中にもカルメンのアリアなど、惜しみなく素晴らしい歌声を披露して下さい、大変な盛り上がりで前半が終了しました。

後半は、郡さんがライフワークとされてきた「愛と命を歌う」をテーマとしたミニコンサート。華やかな衣装で、なんと酔っ払いの演技で再登場した郡さん！オペラアリアや名作歌曲などがトークを交えて披露され、オペラの世界をグッと身近に感じさせて下さいました。

(2月22日 昭和音楽大学 ラ・サール・スカラ)

MUZA音楽サロン第2回
～ベルばらと音楽秘話～

各界の第一人者によるお話と、東響メンバーの演奏を楽しむ100名限定の「MUZA音楽サロン」。今回は「ベルサイユのばら」原作者の池田理代子さんをプレゼンターにお迎えし、東響首席フルート奏者甲藤さちさんと「ベルばら」トークとゆかりの音楽でゼいたくな時間を過ごしました。休憩時には新百合ヶ丘の名店「リリエンベルク」の焼き菓子がふるまわれました。
(2月24日 ミューザ川崎 市民交流室)

アートガーデンかわさき・市内ギャラリー・美術館等の展覧会情報

Event Calendar

- 掲載情報は原則入場無料です。ただし、有料マークのある施設は入場料が必要な催し物の情報が含まれています。
- 各施設とも、催し物の内容・会期・料金等が変更になる場合がございますので、ご確認の上ご来館ください。 □=休館日

2017.4

2017.4		1 Sat	2 Sun	3 Mon	4 Tue	5 Wed	6 Thu	7 Fri	8 Sat	9 Sun	10 Mon	11 Tue	12 Wed	13 Thu	14 Fri	15 Sat	16 Sun	17 Mon	18 Tue	19 Wed	20 Thu	21 Fri	22 Sat	23 Sun	24 Mon	25 Tue	26 Wed	27 Thu	28 Fri	29 Sat	30 Sun	5/1 Mon					
アートガーデンかわさき 〈川崎市〉 川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.200-1415 【休館日】毎週月曜日	第1展示室	群炎美術協会 神奈川支部展 ～4月2日(日)			川商卒60年 同窓四人展 4月4日(火)～9日(日)														東風書芸院展 4月18日(火)～23日(日)						第22回 放送大学写真クラブ写真展 4月25日(火)～30日(日)												
	第2展示室				第2回 タイルスタイル×3人展 4月4日(火)～9日(日)						横浜書道学校 書陵展 4月 11日(火)～16日(日)														東京理科大学美術同好会展 4月25日(火)～30日(日)												
	第3展示室	一線美術会 神奈川支部展 ～4月2日(日)			第28回 四季自然と花のある風景写真展 4月4日(火)～9日(日)															写真展「いつか何処かで」 4月18日(火)～23日(日)						新日美展 4月25日(火)～30日(日)											
カフェマイム マイギャラリー 〈幸区〉 幸区堀川町66-20 川崎市産業振興会館2F TEL. 548-4132 【休館日】日・月・祝		楽しい書展(小学生児童書作展) 4月1日(土)～4月7日(金)																																			
中原市民館市民ギャラリー 〈中原区〉 中原区新丸子東3-1100-12 パークシティ武蔵小杉ミッドスカイトワー1、2階 TEL. 433-7773 【休館日】第3月曜日(祝日と重なる場合は翌日)		さがみ会写真クラブ 第21回写真展 ～4月5日(水)						第21回グループフォト昴写真展 4月7日(金)～12日(水)						中原油絵研究会作品展 4月14日(金)～19日(水)※17日休館日									幸みずえ会 4月21日(金)～26日(水)						マクラメ手芸作品展 4月28日(金)～5月2日(火)								
川崎市市民ミュージアム 〈中原区〉 中原区等々力1-2(等々力緑地内) TEL. 754-4500 【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館)		企画展																							 日本・デンマーク国交樹立150周年記念 アンデルセン展 ～あなたのそばにはいつもアンデルセンがいた～ 4月22日(土)～6月25日(日) 一般600円、65歳以上・高校生・大学生500円、中学生以下無料												
高津市民館市民ギャラリー 〈高津区〉 高津区溝口1-4-1 ノクティ2(12F) TEL. 814-7603 【休館日】第3月曜日(祝日と重なる場合は翌日)		ハンドメイド大好き展 押し花など ～4月5日(水)						にがて画塾 水彩画習作展 4月7日(金)～12日(水)						竹の子写友会 4月14日(金)～19日(水)※17日休館日						第10回 野蒜の会 スケッチ展 4月21日(金)～26日(水)						久末フォートクラブ写真展 4月28日(金)～5月3日(水・祝)											
宮前市民館市民ギャラリー 〈宮前区〉 宮前区宮前平2-20-4 TEL. 888-3911 【休館日】第3月曜日(祝日と重なる場合は翌日)		アトリエどんぐり 作品展2017 ～4月5日(水)						愉墨会作品展 4月7日(金)～12日(水)						宮前サークル連絡会 みやまえJAM2017 4月14日(金)～19日(水)※17日休館日						青彩会展 4月21日(金)～26日(水)						多摩区宮前区 小規模多機能事業者連絡会 作品展 4月28日(金)～5月3日(水・祝)											
多摩市民館市民ギャラリー 〈多摩区〉 多摩区登戸1775-1(多摩区総合庁舎内) TEL. 935-3333 【休館日】第3月曜日(祝日と重なる場合は翌日)								アトリエASABA 葉の会 絵画展 4月7日(金)～12日(水)						多摩木版画研究会 たま木版画展 4月14日(金)～19日(水)※17日休館日						多摩区文化協会 春の多摩区文化祭 多摩区いけばな展 4月21日(金)～26日(水)						暮らしの中の織りを求めて 民具製作技術保存会 はた織りグループ 4月28日(金)～5月3日(水・祝)											
川崎市岡本太郎美術館 〈多摩区〉 多摩区枳形7-1-5 TEL.900-9898 【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館)		企画展		 企画展「第20回岡本太郎現代芸術賞」展 ～4月9日(日) 観覧料：一般700円、高・大学生・65歳以上500円、中学生以下無料																		 企画展「岡本太郎×建築 –衝突と協同のダイナミズム」展 4月22日(土)～7月2日(日) 観覧料：一般1,000円、高・大学生・65歳以上800円、中学生以下無料															
		常設展		 常設展「みんなが見たい! 太郎セレクション 2017」展 ～4月9日(日) 観覧料：一般700円、高・大学生・65歳以上500円、中学生以下無料									 常設展「岡本太郎の赤(仮称)」展 4月13日(木)～4月21日(金)／一般 500円、高校・大学生・65歳以上300円、中学生以下無料 4月22日(土)～7月 2日(日)／一般1,000円、高校・大学生・65歳以上800円、中学生以下無料																								
麻生市民館市民ギャラリー 〈麻生区〉 麻生区万福寺1-5-2 TEL. 951-1300 【休館日】第3月曜日(祝日と重なる場合は翌日)		ゆりの会・萌の会日本画展 ～4月5日(水)						現代絵画同好会作品展 4月7日(金)～12日(水)															クリアティブ・アート展 4月22日(土)～26日(水)						友墨会水墨画作品展 4月28日(金)～5月3日(水・祝)								

(注)会期、時間等は各団体により、変更になることがありますので、ご確認の上ご来場ください。

川崎市市民ミュージアム〈中原区〉

企画展



アンデルセン制作の切り絵 1850年代 ハンス・クリスチャン・アンデルセン博物館蔵

日本・デンマーク国交樹立150周年記念

アンデルセン展 ～あなたのそばにはいつもアンデルセンがいた～

- 会 期: 2017年4月22日(土)～6月25日(日)
- 会 場: 企画展示室1
- 観覧料: 一般600円、65歳以上・高校生・大学生500円、中学生以下無料

2017年は、デンマークとの国交樹立150周年という記念すべき年です。デンマークの国民的作家と言えばハンス・クリスチャン・アンデルセンです。世界で最も愛読されている童話作家であり、日本でも多くの人が幼い頃よりアンデルセンのロマンと温かみ溢れる童話に親しんできました。本展では、ハンス・クリスチャン・アンデルセン博物館(デンマーク、オーデンセ市)所蔵の貴重な資料約30点を展示し、アンデルセンの生涯と芸術の世界をご覧いただけます。

中原区等々力1-2(等々力緑地内) TEL. 754-4500 FAX. 754-4533 <http://www.kawasaki-museum.jp/>
【アクセス】武蔵小杉駅北口バス約10分、溝の口駅ノキテ側バス約20分 【開館時間】9:30～17:00(入館16:30まで)
【休 館 日】毎週月曜日

● ホームページ、Twitter、Facebookにて情報発信中



ホームページ



Facebook



Twitter



川崎市岡本太郎美術館〈多摩区〉

常設展／開催中～2017年4月9日(日)

「みんなが見たい！ 太郎セクション 2017」展

企画展／開催中～2017年4月9日(日)

「第20回岡本太郎現代芸術賞」展

一般700(560)円、高校・大学生・65歳以上500(400)円です。中学生以下は無料です。
※()内は20名以上の団体料金
※企画展と常設展のセット料金です。

企画展／2017年4月22日(土)～2017年7月2日(日)

「岡本太郎×建築 —衝突と協同のダイナミズム」展

建築家たちとの交流のなかで、岡本太郎の仕事は「美術」の枠を大きく超えて、豊かな広がりを獲得しました。本展は、日本が大きく飛躍をした時代、共に都市と時代を見つめた岡本太郎と建築家たちの交流に焦点をあて、建築と美術の協同のかたちについてご紹介します。

岡本太郎設計「マミ会館」
1968年竣工
2002年解体



常設展／2017年4月13日(木)～2017年7月2日(日)

「岡本太郎の赤(仮称)」展

岡本太郎は「あなたの好きな色は何ですか?」と尋ねられると必ず「赤」が好きだと答えていました。絵画作品でも象徴的に使われている「赤」は岡本太郎にとって炎や太陽、血、そして命の色でした。抽象絵画をこころざしたバリ留学中から1980年代にいたるまで、岡本は赤の色彩をもちいた作品を数多く描いています。本展では、そんな岡本が生涯描き続けた「赤」の作品をご紹介します。



岡本太郎(赤い顔)1979年

2017年4月13日(木)～2017年4月21日(金)まで
一般500(400)円、高校・大学生・65歳以上300(240)円です。中学生以下は無料です。
※()内は20名以上の団体料金
2017年4月22日(土)～2017年7月2日(日)
一般1,000(800)円、高校・大学生・65歳以上800(640)円です。中学生以下は無料です。
※()内は20名以上の団体料金
※企画展開催期間中は、企画展とのセット料金に変わります。

多摩区枳形7-1-5 TEL.900-9898 FAX.900-9966
【アクセス】小田急線向ヶ丘遊園駅南口徒歩17分、北口バス約10分、専修大学前下車徒歩6分
【開館時間】9:30～17:00(入館締切16:30)
【休 館 日】毎週月曜日
<http://www.taromuseum.jp>

【第20回岡本太郎現代芸術賞受賞者発表】

岡本太郎賞



作 家 名: 山本 直樹
/YAMAMOTO Naoki
受賞作品:《Miss Ileのみた風景》

岡本敏子賞



作 家 名: 井原 宏路/IHARA Koro
受賞作品:《cycling》

特別賞 3名



作 家 名: あべゆか
/ABEYUKA.
受賞作品:《BE GOD.》



作 家 名: 井上 裕起
/INOUE Yuki
受賞作品:《salamander [F1]》



作 家 名: 黒木 重雄
/KUROKI Shigeo
受賞作品:《One Day》

【TARO賞展関連イベント】

◆TARO賞をジャック!?～URA TARO SHOW!!開催だ!!～

人形劇～URA TARO SHOW!!～のミニ公演と共に、みなさんから寄せられたアイデアを紹介するトークイベントも行います。(トークショーゲスト:審査委員として会田家)
日時:4月2日(日)14:00～
場所:ギャラリースペース
料金:無料 予約不要(先着順)



◆第20回TARO賞ギャラリートーク

第20回TARO賞作家によるギャラリートークを行います。

出演: 工藤千尋、富田美穂、川上幸子、後藤拓朗、寿山凡太郎

日時:4月9日(日)14:00～15:00

場所: 企画展示室

料金: 観覧料のみ

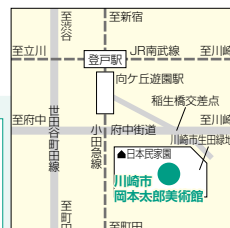
● ホームページ、
Facebookにて
情報発信中



ホームページ



Facebook



アルテリオ小劇場

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺6-7-1
TEL.044-955-0107 FAX.044-959-2200
http://kawasaki-ac.jp/
【アクセス】小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分



劇団民藝

アンネの日記

プロローグとエピローグのある二幕

原作 アンネ・フランク／訳・演出 丹野郁弓

私、信じてるの、周りは悲しいことだらけだけど、
それでも人間の心の中は絶対に素晴らしいのだと

13歳から2年余りの最も多感な年頃に自由を奪われ、飢えに苦しみ、絶えず生命の危機に脅かされながらも、少女アンネ・フランクは鋭い感性と明るいユーモアの目で夢と希望を日記に綴りました。劇団民藝では1956年に初演、これまでに14度の上演を重ね、数々の賞とともに延べ1718回のロングランを記録しています。屋根裏部屋でくりひろげられる緊迫した舞台が、また新たに幕を開けます。

2017年4月29日(土・祝)～5月1日(月) 各日14:00開演

※開場は開演の30分前

【出演】千葉茂則、山梨光國、齊藤尊史、吉岡扶敏、本廣真吾、白石珠江、細川ひさよ、飯野 遠、八木橋里紗、平山晴加

【チケット】一般 4,000円／学生 2,000円(全席指定・税込)



舞台写真

ボカラの会

無伴奏デクノボー奏鳴曲2016

宮沢賢治の夢のかけら

作・演出 ふじたあさや／音楽 林 光

賢治とゴーシュ、二人のデクノボーの物語。賢治の8年間とゴーシュの7日間を描く異色の舞台。

「セロ弾きのゴーシュ」を手がかりに賢治の生涯を劇化しようとする役者と稽古場にやって来た見知らぬ女が、賢治と妹・トシ子の思いにせまる。チェロの生演奏と人形劇も楽しめるふたり芝居。

2017年5月4日(木・祝) 14:00開演 ※開場は開演の30分前

【出演者】松本英司、まつもとごんこ

【チケット】一般2,500円／学生 1,500円(全席指定・税込)



舞台写真

人形劇団クラルテ

おーいペンギンさん

原作 岡田よしとか／脚色 松本則子／演出 西村和子

大阪弁のナンセンスな人形劇!!

初めて1人で銭湯に行った太郎の長〜い冒険?お風呂やさん→大海原→動物の島々→南極→太郎の家。と、テンポのいい舞台転換。テンポのいい大阪弁。嫌がるワニを南極での相棒にしよう太郎の話術とワニのキャラクターの魅力は子どもたちを魅きつけます。笑い笑いの50分。大阪を拠点に60年余りの歴史を持つ人気の人形劇団クラルテ。本場関西のナンセンスな笑いをお楽しみください。

2017年5月6日(土) ①11:00 ②14:00開演 ※開場は開演の30分前

【出演者】奥洞 昇、齋藤裕子、竹内佑子

【チケット】大人 2,000円／子ども 1,000円(全席自由・税込)

※3歳以下は大人1名につきひざ上1名無料



舞台写真

チケット取扱い

- 川崎市アートセンター：窓口(9:00～19:30、原則毎月第二月曜除く)
- アルテリッカしんゆりチケットセンター：電話 044-955-3100(9:30～17:00、土日祝除く)
WEB http://www.artericca-shinyuri.com/

★お問合せ：川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2017実行委員会事務局 044-952-5024



©21Unoproductions_Stemalentertainment_LesFilmsd'Ici_ArteFranceCinéma

海は燃えている

イタリア最南端の小さな島

2016年／イタリア・フランス／カラー／1h54

監督：ジャンフランコ・ロージ

◆第66回ベルリン国際映画祭 金熊賞(グランプリ)、エキュメニカル審査員賞

4.8-4.21

About the film

作品について

ヨーロッパを目指す多くの難民・移民の玄関口であるイタリア最南端のランペドゥーサ島を舞台に、島に住む12歳の少年サムエレの日常と命がけでやってくる難民・移民の決して交わらない様子を美しく詩情溢れる映像で描く。心を揺さぶる静かな衝撃作。監督は、前作でドキュメンタリー作品として初のヴェネチア国際映画祭金獅子賞(最高賞)を受賞したジャンフランコ・ロージ。

Refugees in Japan

日本の難民事情

日本は1951年の難民条約及び67年の難民の地位に関する議定書を締結。81年に難民条約に加入後、翌年82年に出入国管理及び難民認定法が整備された。2015年の難民認定者は合計27人(うち異議申立手続において「理由有り」と判断され、その結果難民認定された者8人)。

Mediterranean Refugee Crisis

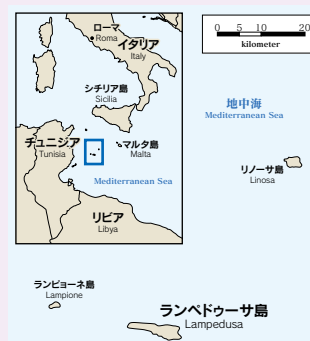
地中海の難民事情

2011年の「アラブの春」によって各国の政権が揺れ、内戦が生じたことでアフリカの多くの国より難民・移民が流出。特に、リビアでは11年にカダフィ独裁政権が崩壊し過激派勢力などの武装集団が台頭したことで政情不安が続く。沿岸の警備も手薄になったために密航仲介業者が暗躍。エリトリアやソマリアなど周辺国からリビア経由で地中海を渡り、ヨーロッパを目指す人が激増している。また、同じく11年の内戦により、シリアでは人口2200万のうち500万人近くが周辺国へ、さらに600万人以上が国内で避難する事態となっている。(...)EUでは、年々大きな国際問題へと発展している。ヨーロッパでの難民申請数は、多い順にドイツ、スウェーデン、オーストリア、イタリア、ハンガリー、フランス。中でも難民受入数が他国に比べ圧倒的に多いドイツを目指す難民が多い。

About Lampedusa Island

ランペドゥーサ島について

地中海のイタリア領最南端の島。シチリア島から南西へ約220km、チュニジアの海岸から東へ113kmに位置。面積は20.2km²。住民は約5500人。「船が浮いて見える」ほど、透明度の高いターコイズブルーの美しい海で有名。



(宣伝用プレスシートより抜粋。校正・文責＝川崎市アートセンター 協力＝ビターズ・エンド)



2014年／日本／カラー／1h31
監督：伏原健之
出演：津端修一、津端英子

建築家で 90 歳の修一さんと 87 歳の英子さん夫婦は、50 年前に修一さんが手がけたニュータウンに土地を買い、家を建て、コツコツと雑木林を育ててきた。四季に寄り添い、細やかな気遣いと工夫に満ちたふたりの生活に丁寧に着目し、本当の豊かさへの深い思索の生へと誘うドキュメンタリー。

4.1-4.28



2016年／日本／カラー／1h59
監督：タナダユキ 原作：中澤日菜子
出演：上野樹里、リリー・フランキー、藤竜也

息子夫婦の家を追い出されたお父さんは娘の彩と 20 歳年上の彼氏・伊藤さんが同棲するアパートに押しかけ、3 人の共同生活が始まる。「百万円と苦虫女」のタナダユキが監督し、上野樹里とリリー・フランキーが 20 歳の年の差カップルを、お父さんを藤竜也が演じる人間ドラマ。

4.1-4.7



2014年／オーストラリア・アメリカ／カラー／1h23
監督・撮影：トーマス・ビルテンゾーン
出演：マーク・レイ

ニューヨーク・マンハッタンで、ハンサムでチャ
ミングなルックスにデザイナーズスーツを着こなし
ファッション・フォトグラファーとして活躍する
マーク。華やかなパーティー会場を後に向かった寢
床は、雑居ビルの「屋上」だった。厳しい競争社会
で生き抜くための「家を持たない」ライフスタイル
を追ったドキュメンタリー。

4.1-4.14



2016年／アメリカ／カラー／1h38／PG12
監督：トム・ティクバ 出演：トム・ハンクス、アレク
サンダー・ブラック、ベン・ウィショー

エリート人生から転落し、何もかも失った主人公が愛する娘の養育費を払うために IT 業界に転職し、一発逆転をかけて地球の裏側、サウジアラビアの国王に最先端の映像装置〈3D ホログラム〉を売るため、異文化の中を奔走する様子を描く。主演はトム・ハンクス。

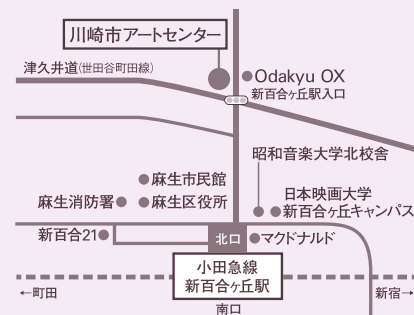
4.8-4.21



2016年／ルーマニア・仏・ベルギー／カラー／2h08
監督・脚本・製作：クリスティアン・ムンジウ
出演：アドリアン・ティティエニ、マリア・ドラグシ

医師ロメオの娘エリザは留学を決める卒業試験の前日に暴漢に襲われてしまい、激しく動揺してしまう。これまで優秀な成績を収めてきており、何ものければ合格点をとっているはずだった娘の留学の夢をかえるべく、有力者とのツテとコネを駆使し娘の合格の為に奔走するが…。ルーマニアの俊傑クリスティアン・ムンジウの長編作。

4.15-4.21

[illegible]

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 6-7-1
Tel. 044-955-0107 Fax. 044-959-2200
info@kawasaki-ac.jp <http://kawasaki-ac.jp/>
小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

- ◆映画のチケットは9:00より受付にて販売
◆自由席、整理番号順入場、立見不可



毎月
第三火曜日
のお楽しみ
2017

ラゾーナ寄席

第58回

4月18日(火) 17:30受付開始/18:00開場/18:30開演

※当日券は18:00から販売します

■会 場…ラゾーナ川崎プラザソル

〒212-8576 川崎市幸区堀川町72-1 ラゾーナ川崎プラザ5F

■出 演…柳家喬太郎・初音家左橋・林家たこ平・柳家小多け

■入場料…全席自由2,000円・25歳以下1,000円

(終演後のおたのしみ“交流会”…希望者のみ・参加費1,500円)

■予約・お問合せ／ラゾーナ川崎プラザソル

電話 044-874-8501 FAX 044-520-9151

E-mail: info@plazasol.jp http://www.plazasol.jp



柳家喬太郎

人間国宝の競演

能と狂言

友枝昭世と山本東次郎の至芸

能

自然居士
シテ 友枝 昭世

狂言

昆布売
シテ 山本東次郎

解説

馬場あき子
アフタートーク
馬場あき子
山本東次郎
友枝昭世

毎年大好評を博している、二人の人間国宝による豪華競演。
 公演前に行われる歌人・馬場あき子さんによる丁寧な解説は、普段から能に親しまれている方、
 初めてご覧になる方のどちらにも好評をいただいています。
 公演後の出演者による、普段なかなか聞くことのできないアフタートークもお楽しみください。

●開催日 平成29年5月3日(水・祝)

14:00開演(13:30開場)

●会場 川崎市麻生市民館ホール

●料金 S席 5,000円 (全席指定)

※SS席完売

1. インターネット アルテリッカ 検索

アルテリッカしんゆりチケットセンター(24時間対応)

〈PC〉 <http://www.artericca-shinyuri.com/>

〈携帯〉 <http://www.artericca-shinyuri.com/m/>

2. 電話予約

アルテリッカしんゆりチケットセンター

(9:30~17:00/土・日・祝を除く ※4/1より毎日営業)

TEL.044-955-3100

主催:公益財団法人川崎市文化財団

お問合せ▶川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2017実行委員会事務局

TEL.044-952-5024

公益財団法人 川崎市文化財団

かわさきアートニュースの制作には、川崎市文化振興基金が活用されています。

〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町12-1(リパーク3F)
 TEL.044(222)8821(代表) FAX.044(222)8817
<http://www.kbz.or.jp>
 平成29年4月1日発行

川崎市文化財団

検索

●印刷・製本／八幡印刷(株) TEL.044-542-2311